

2004年6月11日 第22回研究会

発表者:高松洋一氏 (COE ポスト・ドクター研究員)

発表題目:「オスマン朝における文書・帳簿の作成と保存 18世紀から19世紀初頭を中心に 」

本研究会において、高松洋一氏は オスマン朝の残したアーカイブズの特徴、オスマン朝のアーカイブズに関する研究、文書・帳簿の作成、文書・帳簿の保存、アーカイブズの伝世、出所と原秩序尊重の原則から見たフォンドの特徴、というように多岐にわたる発表を行い、最後にまとめとして オスマン朝末期からトルコ共和国初期にかけて意図的な廃棄あるいは劣悪な保存状態のためにアーカイブズの一部が明らかに湮滅してしまった点、フォンドの違いが積極的な意味を持たない点、フォンドの来歴に留意しつつ現用当時の秩序を再建する必要がある点を指摘された。以上の発表に対して、参加者から地方における文書の残存状況や契約文書に関する質問などが出され、活発な質疑応答が交わされた。